



# おめでとうの本当の意味

【福島県】齋藤 絵美 43歳

た。

その時です。

様子を見ていた助産師さんがこう言ったのです。

「あえて言う。おめでとう」

え??? 生死の境をさまよっているよ、抱っこさえできないんだよ、なのに「おめでとう」?

頭一杯のはてなマークを助産師さんにつき返すだけの気力もない私はそのまま泣き続けました。

それからすぐ、大学病院へ転院

し片手では足らない手術を乗り越え家へ連れて帰れたのは2歳の誕生日が迫っている頃でした。毎日面会をし続け、お腹に生命が宿ることや十月十日一緒にいられること、この世の光を見せてあげること、すべてが当たり前じゃ

ないと知りました。その時、あの助産師さんの「おめでとう」の本当の意味が理解できたのです。数多のお産に立ち合っているいろいろな経験をされてきたからこそ「おめでとう」が伝えたかったことを。

あれから10年、体にいくつもの不自由を抱えながらも毎日楽しく学校に通っている息子。私も柳の木のようにしなやかな強さを身に付けた母親になりました。

そんな今だからこそ、笑顔一杯で言えることがあります。10年前のあの時言えなかった、「おめでとう」に対して……。

「ありがとう」

予想もしていなかった悲しみに襲われた時涙なんて流れないと身をもって知ったのは、人生で最も幸せな日になるはずだった出産の日。待望の赤ちゃんは大きな病気をいくつも抱えていることが出産直後に分かりました。

先生から事実を告げられても頭は回らず、夢か現実かと抜け殻のようになっていたのを覚えています。

丸一日経過し、ようやくようやく会えた赤ちゃんは保育器の中で「生かされて」いました。テレビでしか見たことのない世界がそこには広がっていて、現実を目にしてようやく置かれている状況を理解した私は初めて、人目をばばかりことなく泣き続けまし

